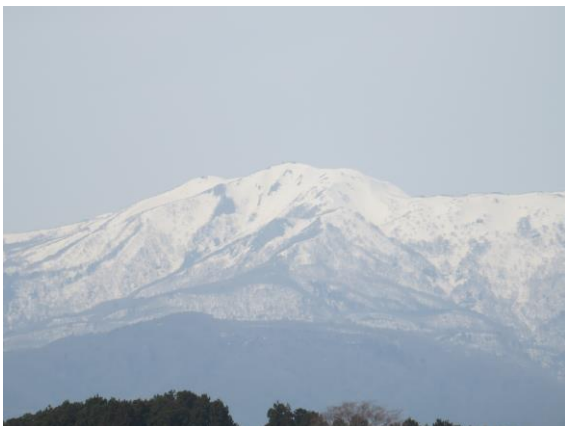


# 長畝ふるさと通信

【2015年3月号】

## ■ 春はまだかいな？

3月のお彼岸も過ぎ、西の方から「桜前線」の便りが聞こえてきていますが、佐渡では春の訪れはまだ先のようです。集落のあちこちに梅の花がようやく咲き出し、まだ残雪をたっぷりと残した金北山が春霞の向こうにきれいに見えています。トキは繁殖に備え、頭から背にかけて灰黒色に変色し、たまにウグイスの鳴き声が聞こえてきます。



組合では3月15日に決算総会があり、すべての議案が承認されました。米価の下落や補助金収入の減額などから最終的には「赤字決算」となり、厳しい農業経営が浮き彫りとなりました。また、任期満了に伴う役員交代があり、代表理事が「渡辺正之」から「笥 良夫」に代わりました。前任同様、宜しくお願い致します。

## ■ 畦塗り、耕耘、種まきの準備にフル回転



トラクターに畦塗りのアタッチメントを装着して畦を塗ります。しっかりとした畦は水の漏水を防ぎ、田んぼの水持ちが断然違ってきます。



畦塗りが終わると田んぼに水を張って、トラクターで土を攪拌します。ロータリーの爪の深さは約10センチくらい。田んぼのデコボコを気にしながら、できるだけ平らな田面になるようゆっくりゆっくり耕耘します。トラクターの周りには大勢のカラスやトビたちが田んぼの中で冬眠していた生きものたちを食べようと群がってきます。生存競争は厳しいですな。

## ■ 試練の江流 今年も

3月22日、年に一度、田んぼ作業が始まる前の恒例行事として「江流」を行いました。排水路に堆積した泥や石、U字溝に付着したコケや雑草をきれいに掃除して水が流れやすくする作業です。今回は35名が参加、うち「青年会」が13名です。青年会いわく「お金を払ってでもやりたくない仕事」だそうで、当日の冷たい雨が一層作業の厳しさに拍車をかけます。土手の高い水路では泥をスコップで掻き出すだけでも大変なのに、さらに土手の上まで泥を放らなければならないので、夕方には腕はパンパン、腰はずっしりと重くなります。写真の水路は突き当たりまでまっすぐ約1キロメートル。半日はたっぷりとかかります。作業を始めて30分も経つと、「どこまでやるんですか」「この水路の突き当たりまで」「はあ〜・・・」長い試練の始まりでした。予定した水路の江流が終了したのは土砂降りの夕方4時。お疲れ様でした。



## ■ 江流は生きものたちとの出会いの場

水路にはたくさんの生きものたちが暮らしています。今年出会った生きものたちは・・・



つついても全く動じることのない手のひらサイズのウシガエル。何か文句を言いたげなナマズ



反対に黙ったまじっと耐えるオニヤンマのヤゴとモクズガニ



山手の田んぼに生息するモリアオガエル。指先にちょこんと捕まってつぶらな瞳で話しかけてくるようですよ。

春を迎えれば彼らは一斉に行動を始めます。すべては次の子孫のために。私たちも次代のために田んぼを守っていきます。応援して下さい。